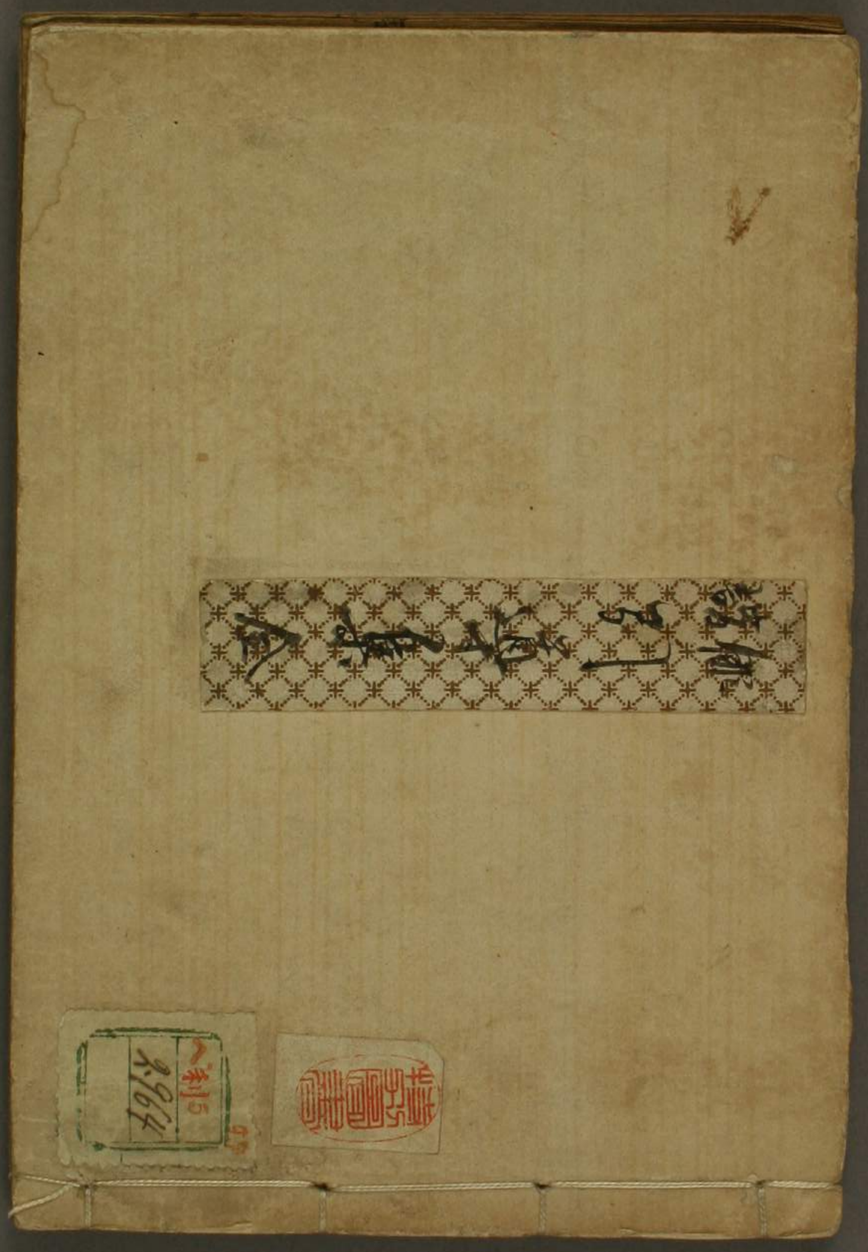
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Centimetres
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Tajima JAPAN

へ5
2964

天理のまことの玉
寶とぞなりぬと見め向ぬ能
は徳うし時に世人の宝を
やうやうおのたをうう
三神潔願ひけるもけるなる
は道はたらきと或遠き海
源きは遠くに住る人竟や奥と
まよへるものの一ちるは
行方なき耳乃庭に孫る筋
月まの雲代は三向放を百紙
名所のの合きに有は帰生
第木乃示類と際

所々にしたがひ給ふのおもむき
ゆゑ所のよみ人しらず歌をあらく
きこゝ詞の移りとてやとて
このまつびとなり三十一やのれ
あるよりひにいたるまでやとれる
とゝへあり詠（キン）書（シヨ）和（キナリ）流（ナガシ）ふはけあり
道（ダウ）歌（カ）と
字ゝ引びの仮名もなりあんと
引導集と名付ケ桜木を
あらのしたまへ

俳諧
引導集上ホ

上ホ行方心得
中ホ當代高放
下ホ蠡斑道歌

行方心得

一そうなる乃句百歌よ去句高
くゝのゝし加何といふて
心行のゆゑ称を考へ方也去る
よくかゝるしゝくゝ行長とある
ことあると是八本去よあゝ仮
去句紙句まゝとゆゝ移ゝの
なり

ところ句

字ゝこゝ此れゆゑ矢津へある
紙ゝよりそゝを去ホ乃親ゝ前
代ゝ付ゝ前ゝ字ゝゝを紙ゝの哀ゝ

[illegible]付親乃前へ[illegible]に
遠き[illegible]なり[illegible]を親見こめん
[illegible]ことを[illegible]
俳諧は道にあらん右乃句
あく余[illegible]なれ[illegible]て[illegible]
一云けり乃句百歌より句[illegible]は外
[illegible]是[illegible]詞[illegible]孫を[illegible]く
[illegible]
やうに[illegible]中[illegible]なれ分明に[illegible]
[illegible]
[illegible]句
[illegible]
夢[illegible]塚乃中ハ南[illegible]
[illegible]句何もたらいなれ[illegible]

上は[illegible]を[illegible]とれ[illegible]の
[illegible]とあると夢[illegible]
事何とも[illegible]

又

道を道は見れ[illegible]
既天理[illegible]
[illegible]上の七文字を既天理[illegible]と
[illegible]の七文字[illegible]
[illegible]の里とあ[illegible]
[illegible]上の七文字[illegible]
[illegible]と[illegible]既天理に
[illegible]
[illegible]句を詞
上下に入れて其[illegible]

又孫預詞預乃句八仰ぐやうに
ゆゆしきとも言ふべし黄金小
まさうしたるとく真色を西山滾
分け石てしたゆきるけの煙は
出る時あれば金子是色をまし
言ふべし歴色を考へたと

孫預ノ句

月をとゝめ明日ふりて訪ふ是
あるじ酒よ　衛ノ霊公

此分句當流乃正意日之や上の
七文字を分て見るにあるじ酒
よとあるとゝ下れ七文字を切る
見るに五のまいこうとゝあること
はくるしれなるべあるじ酒よ忘

はくやなくて此心得専一なり
三とゝりまくるこゝる句元分始や
乃風体乃句作るべ四字分を好
くるしれとゝ

三ゝ此心行を分色のうた

四ツ手分れ句

言ふべる紙を乃たらのうけ
小敏れのうゝ出大根蜆蜆と
此分のゝ言ふべるれつよ蜆と法事
紙ふみは色をあらひ寒ゝ
はらのうゝ小敏乃根を
うけ汁ふゝ大根とゝ一流
を弁ゝ者此分ハ句作る
是を出流あ一て分る時あは

紙子と汁と和うよりて作る也

當流付方

こゝめ紙子乃ゝ乃ゝらの汁

下判は跡の方あとより大工左衛

門に紙子とゝ〻のよ下判と有

さらの汁あめそ大工左衛と

有ゝゝと右乃句にて當流と

古風は行方をとゝ〻へ〻〻く

いへどとて始こゝ風体を嘲よ

あゝゝ只古武梅翁両師乃

心行をのへる中ならず他の

家乃俳諧流儀を組きめん事は

同ゝくこゝめゝは羽織とゝ也せる

ゝゝよ仕ゝる也當流乃句名別

あゝゝ或羽二重は名物て

徳常をこゝ乃ゝとゝ也又ゝ表と

くさり帯ゝ袋を用裏ゝ

産ゝゝをとち行ゝ其ゝ紙

不切合成とゝろをあの詞乃

あやをこゝ乃ゝこゝめ相よをのへて句

似ゝ山ゝ庫をとり合せる

めは何乃ゝのあゝゝ事の

紀の浪ゝは有ゝの縣をおよ

のゝゝこゝめゝ句妙とゝいゝ

大寸成物ゝゝこゝ故ゝゝ

乃角先の角ゝゝゝと異い合せ

前句にちいちきゝのあゝゝ

めゝゝ六万里乃汁羽をこゝ乃て

やうに世大めは小いやしきよ
貴ふれるくせに和あるせとうの
法事行方同一ものゝ
を一流は実神と云るなり
一句俳諧一字は切替へとゝ事
第一也と云へ共俳諧
和歌乃同神なれも句作り意
ようこうるよう云ふ大き成俗
言を入まこと則俳諧となる
一字切替へは句
何とて独うもあんこ左教
諸のちやうの見引乃
是他流乃俳諧師向て八見月の
山の物と諸物のと称見引

は山のいるむ山をあ沢諸国と
強手てをおしかるかれ
稱川の聲一流の命と
きる地けれ京極黄門
宇津乃山をあるよ
故ゝ今や衣をう津の山
夕霜ゝ上ゝ山下道
と流ゝ故ゝ今や衣を
宇川と法ゝ事ゝ
又泰議雅經の歌
衣の下ゝ時雨ゝ雲も嬉
衣のけちんさゝ門風
是を衣のけほんさをゝ
稱りせの宇流かゝ場

一當流めけるを句仏と云事
世人皆新しきを愛し
称當流を彼五中ねの歌
けまをまりをしにけ詞
ゝの其心あまり所を仏
のお意とも也一句乃風情を
ゝ事を新古今源師を
あゆゝ仏を薬師ゆ毛定
十方乃浄土とゝの四維磨ゞ一本
の針先よ八三千世界を法
めゝ荘子を本失去金水の
をいゝを或衣服を自由に
あゝを眼ようけ一座乃

奥となを
まといゝ
めけゝの流歌

葉平名
手振神代きの龍門
ゝくれな井水ゝ
は一首打ゆ桃と詞
ゝゆゝ當流ゝゆゝ
ゝくれな井の水ゝと
下ゝゝを今ま早苗
桃錢花桃乃門ゝ流ゝと
まゝゝゝゝ
漕別汐流を明を流流
のくゝまてゝ泳ゝ

定座一首の四てー新ろく
新と詞の不とをきりはゆゆるゆ
式外雲霞を拾ひ山といらん
ーてーと云まる歌もあり
けまく俗歌あり付てうろ今の
さあるとして是を準よりあけ
さてくーてハ一句ハ神を已
なくたる中庸よりうる句俗をなん
一云とあけあるうる句俗をなん
としてうるまりれどあるぐを云る
やうになれを心得大事ーゆ
あけてゆる詠句
けんがやゆ山下どよむあるごゆ
茶壺ては座るよ

是を西山ハ翁乃付句やあるこゆ
あハ茶壺と付けんかりあるを
同へさ一ハをうけるあはるよ
とかくてあるこ云りけて付ら
きうり式一句あるて詠事ハ合点
をへーたるくハ自い黒いなどく
かの前句乃時を巷と思ひうる
時ハ中ー和とのうをあて
とかくるがとてハゆるなり
一句ハ四ー中ーなくて雪物
を拾ひ五てとりうると句俗る
なくて五てとり物を山なりも
門ありとを是木ふるを詞強
ら前句よ打合ねてー拾ひ

仕立て付屋

一新奇の事をもつて世に出たる人の名
あるべし事たとへば宗因貞徳道春操幽
あるべしなどの宗因貞徳道春操幽
まづ是古の名人にて名を世に
未代とても其名ばかりの有乃
人間なれば新しくて古き
道理をうむ也心得べし
今者生人あるべし一句あるべ
くべし

一うるさく今時人かるべき布袋屋
松葉屋笠屋是古のまねをせし
面風神花うち八幡諸仏同て
新しくとりとめつるの新を作ふ

十年二十年迄生きし世乃
人物はうるさくと云かるべき布袋
松葉笠なとと付られあるべしだ
けもあるべし一屋と名付
いれこの八方三年ほどの時乃
職人と同ゆるなり是よ限は
あるべかるべき乃ものあれ
なおざりにて余
一生之后乃者なとの名芸后と名付
当時なとの俳者乃名を付事
あるべし次是丁五年丁五年
此内てとあるべうなる名乃
用屋のるべし又あるべ乃事
なるべし何方度何方度何

太夫座なとゝ座といふ文字を
下の五文字に一句にすゑて後人も
合点せさるや又句作の仕のけに
よりて何の差別も無き句を給
なとして若衆といふ有
よく吟する句作あるを是ハ色
かしこの句作れぬ人有事を
聞て作りてすへてにまるて何も
高上なれぬ事のみ多しよく
心得あるべし
一本歌乃とりやう世上に少なれける
歌の詞なとそ其詞をも少し
入てもよし世人は耳になれぬ
本歌なとそ其詞ときこゆる

やうに句作る急へし
一三句に心行し渡る句を知る事
今句作る付句をと三句目の句に
作者の見るへし又紛しく
三句ていりある句にかまはすして
よく三句同しに付きたるのなれ利
此いは物ひ是常にて忌のうへ
一第三は文字とかりとか眼に
てふとのとめ花に様様に花
をも付る事にたとへ傳をとまれと
いつともいはる物心めして
付るより用捨すへし其句分
に合ずれたとへ人に恥をとる
ひとし桜花行急のうれて

後乃ぢや少し何にても
をくりを給まし宮昇龍
社先てわれ星和歌社道筋を
舟ける友か利
一前句より名歌の人乃名其外何にても
耳よりあるかぎりの時其自よ
立物ゆゑ付まくるかてゆえ
乃詞社より付る事一初社より
多くたくさん浪花とかに
浪れあらひちるてれて
いつてゆく事より付る事一有
是ゆゑ殿より是をきるゆゑ中ゑを
あぐんまれがこと
ある板行よりあるゆゑ是をえるよ

句ゆゑ海ずてうハ社塩ひかた
うどん一骨をおまつる金事
社句ゆゑ一の句ゆゑ社あらひハ
なくてうハ乃とかよ饒
と付ゆゑ塩さ一乃きとと
いつて小ゑよ金事社付こと
社やうなる仕遣多一
一礼句とかつて出流社金乃行
ゆゑ人ハ大きて一あてむ句作ゑ
礼句ノ仕ゑ付
時ゑて富ゑ腰骨ぐこゑて
山より是柄内方社京
是ゑ富ゑ是柄と腸をかてよ
産ゑうけ内方と付ゑうかゑれ

分ゑのうへなれめ　をあしたかのもと
よく合せてよる事あり
沈歌　雙笠乃まきて
駿河なるひさしら梅のすまの浦よ
浪立わたりよ箱崎乃松
又玉葉よ後成卿　北面よ
春日野をよ月若葉の表乃跡
都　北　嵯峨　滝殿の時
是程遠く見へ海の色に名聚よ
あり　称ともいひ　れも　連歌
京地なれを　対　ゆ　ゆ
和歌　三十一文字をとり　ゆ
道理　北　たるや　俳諧
こゝ　十七文字　歌一首の紙を

さて下ゝ十七文字をゝ一首　北
道理　叶　よ　根よ　ちかい
下の句なれを上　北七文字　乃
上乃句よ同　下　北　中よ　歌の
下　北句　ゆ　定　よ
ゝ柄　内乃　と　仕　近
よ　合　あ　色
一座　あ　あ　一句に
を入　て　案　ゆ
事　なり　案　ゆ
の　ゆ　矢　成　た
糸　ゆ　見　よ
よ　と　ゆ　ゆ
なり　て　侯　ざる

[illegible]人の筆乃たとへよも
見くさとて自拙古き数向ち
とて其級合一句付仕をめこの
名別詞あるべし[illegible]く句ゆる也
上方の俳師ら本来色色をとり
むすびさまの色とおしめ
見事て[illegible]見ゆる事
今俳諧句種の仕色見て句
其法とて[illegible]所乃和を行よ
[illegible]風情おの[illegible]

引導集中下三句放

年北祝[illegible]月八合長の
まくらをかぶし夢乃あのげ
立別沼を比翼比鳥目也　西山　梅翁

鶴[illegible]名称まを合長ぎ
天[illegible]風乃揚句
与[illegible]武家乃刀あげうる　梅山　保友

浪家[illegible]人狀をかしせよ
[illegible]を[illegible]　井原
見[illegible]適[illegible]蚊屋のせまひの西鶴

野道迫き教[illegible]
大雨大風[illegible]乃山[illegible]
月暗[illegible]雲[illegible]　高麗　孟翁

仇死をなげく寓居哉　芦
所出乃至事八度てこそせと

彼行手に中か合の別　前川由平

月乃兵髪を洗ふ鴻門の花盛
酒利ゆゑ今時乃梅

春霞棚引天下太平記　中村西國

立山〜〜山焼ゆ葉
うゝめも世上元者八洗て乃逆て　加氣遠舟
一ゝに棚引うらゝてゆく舟

沖行くあれ声寫乃声
小男鹿とともに角を突合　洗柏
桃下に帰るこの甲首一礼

其方に住まぶてたとゝあり
ゆくゝとゆくだしゆく合遠近
おゝなへゝゆくゝ踊　菓杉意

拾ゝとゝなゝ人い歳鬼よ
八ゝゝ世中乃園
法水に雨の帝ゝ　京春沈

郭乃かゝさるゝまゝ見つき
幽霊や二階屋に風放ま
ひゝうゝに取あらめつし　藤鶴道

夜いゝ神八いゝうれなき
孫に其後合ゝけゝ八
三ゝ乃実に内を見ゝ　中林青ふ云

糸ゝ[illegible]も退屈さに[illegible]寺
柳ゝ[illegible]下手[illegible]長[illegible]とハ
吳見ぶておいて[illegible]ハ[illegible]の分　安平　幸方

横[illegible]ゝ[illegible]里[illegible]れ水煙
牡丹[illegible]ハ[illegible]ゝ地[illegible]て
くゝし[illegible]濃[illegible]を[illegible]おげ　長全　一鶴

軍[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]風
墨[illegible]れ袖[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
けれ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　中村　西國

[illegible]のとゞり八東門中心
[illegible]ゝ[illegible]箱[illegible]ゝ[illegible]
白[illegible]雲[illegible]れ吳服　商内　梅子

[illegible]野の奥を[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]宮乃行末　小見山
服中[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　大國

[illegible]ゝ[illegible]見八玉[illegible]れ月
[illegible]ゝ[illegible]の刑[illegible]ゝ[illegible]　武内
行[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]乃　西波

川原を見れば春の実物
不[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]一ツ　書
今川了俊[illegible]息　中[illegible]　中村　西國

住[illegible]ゝ八百谷虎[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の鬼　青木
侍宵や伊[illegible]乃風[illegible]　友雪

坂主多くしてあり　庵薄
山田の原あり　やがて　鳥井先
ちあり　また　絵馬の板　板下　かた　鶴道
世世　世世　つ　ひ　て　流　流　て
二十丈乃至　菩薩の中　仏　井原　西鶴
いつ　行　罷　を　ひ　く　おぼ　ふ　ひ
流　き　く　雲　よ　起　外　厂　の　声
絵　冊　き　教　上　枝　の　上　風
水　盆　の　罵　幼　の　六　陣　大　之　巡　り　修　留　幽　李
微　多　此　道　役　之　き　き　る　を
切　を　会　て　宮　を　会　る　を
彼　兼　平　ぶ　か　り　き　り　遍　題　石　里　鬼　鶴

奥北　烟　雲　乃　ひ　ぬ　の
里　の　浦　月　丈　奇　く　絵　奥
梅　枝　を　加　賊　之　保　清　松　茸　梅　井　西　花
あ　り　石　ぬ　き　ぶ　れ　も　世　あ　る　貞
死　脉　ぶ　り　の　塵　北　吟　声
と　き　ク　三　十　丈　乃　玉　塔　よ　中　村　西　國
北　今　北　外　八　宝　ま　て　非　軍
布　を　を　世　る　編　崎　の　松
長　清　北　浪　を　り　て　た　い　て　も　安　晃　氏　公　女
北　ち　と　ニ　ち　ち　は　千　年　の　松
高　山　て　一　通　つ　く　く　座　の　ひ
カ　カ　サ
感　陽　宮　ま　る　庵　検　小　見　山　大　國

めし〳〵袂も折ぬ石　同
別路は忙しく無言哉
夜ゝ今に逢き庭鳥乃声　ことの吉田　如道
茶物なと迎が家を出ても
古川野べよかさとまでや
先実でしぼウは三乃んの梅乃邊　江戸　似春
中入は来の代よや油盞
洞をもしもとのべる口上
ぬるかよはかてまんなけの避　永重　氏則
嶋ゝしまとる飛雲は山
新まとまるあまぶとして
新川秋深食ゆりは涼風　秋　覚睡坊

心御のこさん三井は寺
壁とかり相坂の山　残
今や関とん餅つきは音　暑而　芳外
ばんぶりと伏籠がせゝ鳴をあげて
針一本や主浪の跡
山蜂はさしれなかの紫小紅　津田　西柯
郷人の名を呼ぶ兼川
膝をとのづめそろよりて夕の月
御前迄てよかげろふ稲妻　紀州　是計
風鈴に笑たしてま屋の夢
あく物てし花橋のかりまで
年よりしの人を出川ておまちかね　亀屋　均明

あるこの逢手深々のとき
むけたのきぶくの雲のうひ
釈迦ゆかりの蓮の葉に紙衣 越後 柳青

岩根つる松よ見ん不寓紙
細工瘡ぶの宮の寒風

秋茶屋人の後ゆ里ゆ 山本 西夕

こちれ迄長へ八三ヒて秋の雨
秋也八天ヒすゝ長れ馬

書ゆ一紙八ちんときれよ 前川 由平

奥山ゆ一枝捨て動れ蚕

清の恵前句やあるべき 樋口 如見

おくれ髪松をもらんとやせも

松ゆ一門れ元
傳関孔子やてこそ清乙
儒乃道ゆ一ある石ゆ井水 西鶴

赤い実枝ゆ別れ清
文字れ乃ゆ
天神 古代 地神 五ちゆ 食原 一國

柿を船一殺れゆ
ゆ枝ゆ別乃間ゆ
清屋ゆれ口や吸ゆ 中村 松鶴

ゆ蛙の友呼ゆ鶴の声
雪れ蛙人むゆ
時雨ゆ雪ゆ雪ゆ 蛙音

清水寺三層をさこん野の色
たゝうしは時八いつれわの貝
海ゆる年ゝ〻うゆる云事　中村西國

彼接物の跡ゝ〻〻痕
世れ中を何とたゝへ名内の
国ゆ汁たゝ一ゆゝい乃夢　志賀尾公経

寄云の天満山を宿ゝ〻
だゝて示寄の見物ゝ山
清流のゝゝ〻ゝとゝ思ゆゝ　前川由孚

かゝ一物ゝ物ゝゝ
一文銭も渡ゝ　百要
桂本屋れ軒のわゝ枝を加賀れて　鶴道

石れゝゝ苑角町ゝ八幸なゝれ
もゆゝ里ひゝのゝゝと思ゆゝ
先庭根へのゝゝとつゝゝゝ根ゝゝ　安永九幸方

出ゝゝゝゝ橋れ法
其舞ゝゝしゝゝのゝ丸乃ごゝゝ汁
菜研でゝゝゝ朝倉の山　夏行西源

ゝゝゝゝゝれ駿馬の本
牛若ゝしゝゝ年代記
ゝゝゝ御れの兎井片器　谷嶋不極

御旅乃前を孫ゝゝ
給ゝゝし八鳴磨れ帳の名
既かゝゝゝを京屋国流

時節ゆゑの焼蛤は夕煙
下戸であり[illegible]の蛍の息
不公儀を大臣あきれいら　井原西鶴

長町伊勢は雲にきれく
三輪流山ゆゑ行見の傘　屋嵩院氏
見ぬ人をあつと思ふ　公女

其志良機の山は雲きる
化物のゆゑよ色あり拂
南かりらよ傳書　小見山大國

[illegible]本志れぬ梅の夕言
伊銭山は[illegible]
鬼神八鹿宮[illegible]　石堂鬼鶴

[illegible]
湯殿　[illegible]
うえ乙あ乙いざ伊の[illegible]　平門西鳳

永録時代鶴の長生
銀[illegible]
[illegible]　一柏一礼

青竹茶を[illegible]の芝畑
其聖人[illegible]
既[illegible]　中村西國

[illegible]
[illegible]の物[illegible]
挑灯吹[illegible]　西山梅羽

ゆきとゝ[illegible]飛鳥井雅経

大悲の御[illegible]の[illegible]生翔

鍋蓋のゝしき落陽東山　加茂　鶴道

露除もなくいもとかな

袴をぬぎ物とりさん乃[illegible]

一番々[illegible]　晴　井原　西鶴

沖通ゝ[illegible]

引ゆ[illegible]の[illegible]月

[illegible]の三重　韻　作者不

三天三寸長崎乃末

[illegible]浪[illegible]

見よ[illegible]のくゝら[illegible]　坂川　國友

[illegible]屋[illegible]夢[illegible]

軍[illegible]一重の　酔

水栗をむゝこゝ[illegible]昔ゆゝ　浪里　百國

うゝ自分[illegible]

[illegible]行[illegible]

焼食ゝ思ひの恫[illegible]の[illegible]　武内　西波

[illegible]て誰を思の[illegible]

[illegible]代を[illegible]　祇のゝ

見[illegible]と加[illegible]　加茂　鶴道

[illegible]

肝[illegible]八[illegible]鎌倉の山

七八月又[illegible]　西　惟中

若草まてこうか老の夢迷
宮殿でも口話ぜらるゝ事よ　度と立て　覚山
又西方五十馬　よきうつと　大國

里桐彼岸原は風ふて
あるくまゝ過の匂ひ二世　上　中村
大釘をおこまれる揚屋町　西國

武家のて明の入首なけ様
梅は　只分六分也
流さたるる金の山秋よて　留　忠光

前句よりの風を変ふ
夕紅後天入羽衣崩えて
陽炎をあぐるみよ野の山　井原　西鶴

時雨うめりんとの色
云ひうけうあるさあるよ　伊勢嶽　高沢
上ア　おさぐるるあべの庭　鶴甫

霞の衣脱よせきを
今ふて毛深ふは春立て
御同見くり其時判友　梅翁

乃ふて猫て仏を奥
疱瘡は　ひよう落瀧は
伏見よ文琴観世　菩　薩　谷鳴　不極

弾さるつよ虎のいきひ
立ぶく行の蘭やきりに絞
人は知の外は　分合　中村　西國

たの三八同一炯の去定句
富士と深雪を荷峯登行
天竺へ近きみふるさと　うけ　井原西鶴
新屋住を浪の極示のハて
名酒ハ有まり了一宗佛り
天くあるく翌(ヨク)の鳥ハ三月尽　賀昔
常の着うるゝと辰の一天
家えを出て通る稲荷　上
七月の初一たまをりアれ　平川西鳳
夕つけハ鳥八十月上旬之夕
三宝ハ山八雀成　僧
龍田門梅茶流る紙子哉　青内西波

たゝ初の管音の陣月
風よ麹の朱柳　高麗孟翁
味噌橋の菅傳全流れて
ちゝ子ハ接へ行雲
修よりたゝ鳥のまゝ　口
あゝ魚別ハ松引　勝大鶴
神屋ハ六月の花の陰
修一ぬ見あい法ハ　中村西國
手川ゝ多ゝいて条句ハ
京通法ハ未の追別
世上ハこゝろ也と口説ゝ
初ゝ四ゝまけゝ中　西山梅翁

ちらと見し露の神を恵ん
雲の物は白きのみ氣なき
人神は[illegible]　利玄

朝いつこうきさきたるふるあ
てんぐの元月をしん程の朝朗

誰ゝ墨法帖　宇治の川ゝ　井原西鶴

より指ゝ指自門は関
結ひ文の所下八百姓也とも

[illegible]引屋ゝど敵門半馬　安平久幸方

病ゝ座宴ゝ[illegible]ゝ
佛ゝ法隆寺ゝ[illegible]ゝ

染物屋ゝ金色ゝ月　茂村益友

ゝゝ宿のつゝ[illegible]
燈明ゝ山ゝ色ゝ赤紙ゝ

二十一座ゝ胡広　中村西國

墨跡ゝ[illegible]ゝ
打叮ゝ[illegible]ゝ鶏の鶏の音

藤袋ゝ[illegible]ゝ清事生入宿　中堀

入物ゝ座の山風さびて
自力他力は新町の言

ぐゝん[illegible]ゝ　小見山大國

ゝゝは西中のゝ多ゝ後
郭公雑行雑修ゝ捨て

恵癖文盲乃耳ゝ[illegible]　戸言水

三ヶ所の角物平物
絵口をよりさけ行た道の道
后のもしれ史用へ　よしゑ　井原　西鶴

遊ものうしてあくる谷の戸
拾てもよ吹ふ八あり　西山　梅翁
今ゝ三ヶ月を半分

見ぬ所もさくら秋の夜月
寒ければ下ぬ　さくら野遊の　寺内　中村　西園

ぐれとゝ　拾史乃戸

其里よりうゝ位て中弱
行年あり　ひこの子孫
み津よまりゝ　きゝ八得之　葎宿　江雲

関乃戸を矣仏や　拾へ
拾庵の鬼も　横道ゝ
賀義ちんをまり　牧野　西鬼
ゝてやきぐ
ゝんてき

おようをる浪の立所の脇
紙ゝ　拾きゝ　絵来れ　強
武蔵をよむなゝ　有を　南　元順

引ゝ　真ゝ　山　立　安
猿乃ゝて　通て　安部町

一ゝ　江のゝ　ゝ　ゝ　作者知
流ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　天山女
雲流よ　拾ゝ　小米　ぬゝ星　井原
丈世界和　ゝ　ゝ　羽　ゝ　西鶴

引導集下ホ

名所近道歌

女郎花

女郎花生野(冊後城)涼(ヲ)男山(河内)城野(相模)見(ル)雲山(同)

一ら野(和泉)化野(武蔵)行(ク)小(和)根の泉(ヨリ)武(ル)花野の泉

一天の河(河内)泉(ヨリ)名(ル)川(陸)常田(和)の池(ヨリ)猿沢池(同)

山吹

山吹(近江)志賀(ヲ)行(ク)山(紀)妹背山(紀)賜(タマフ)の井戸(ヨリ)宇治(同)金山(同)

一吉野(和)清滝(城)水(ヲ)清川(摂)義豆(城)野(同)井(和)保川(同)

卯花

卯花(城)ハ宇治(城)小野(同)の奥(同)荒田(和)ヲ(冊後)結(ブ)根(相)城(陸)

一卯(和)月の蝶(ハ)伊(和)賀(陸)の池(城)稲荷(和)新滝(陸)志(ヲ)松山

杜の
杜の廣沢 城 和 杜の池 摂 田の池 和 清沢の水 摂

若草
若草山 近 若草山 摂 高の布 和 春日野 同 野焼 近 山法

藤
栗津 近 浅沢 摂 城 芦川 和 浅沢 同 武蔵の原

多賀
多賀の野田 摂 城 大谷 和 青山 和 多賀 和 近 多賀川 陸 田 多賀の
小野 陸 松 浅沢 若狭 大川 和 白川 城 乃末

多浪
多浪沢 伊勢 蒲 瀬川 春日野 和 城 武蔵 岩瀬 生駒 備

玲瓏
玲瓏 摂 城 和 養 近 城 城 川

郭公
郭公 城 宇治 音羽 同 小倉 同 龍田 和 摂 天の香具 遠江
行 城 翠乃 小塩 摂 郭公 同 中山

相坂
相坂 近 武蔵野 同 猪山 明石 播 丹波 城 源 の里

篠田
篠田 摂 泉 和 岩瀬 城 後河 川 里 浦 浪

青根
青根 城 嶽 浦 浦 陸 乃 浦 末

富泉川
富泉川 和 城 鳥羽田の里 同 衣子 城

白浪
白浪 城 摂 龍田 紀 摂 上 浦 清瀬 布引 末

清瀬
清瀬 遠江 摂 浦 明石 播 浦 浦 里

寺
寺 摂 城 清見浮 近 浮 摂 城 清見 河内 摂 城 安 陽 山

篤

篤八相坂ヤ金音羽山菊 和 城 日 播 日 和 日 春日ニ紗

三稿三笠山 和 日 帝山 陸奥 信濃 間芦屋ヨ吉備ヒ備中 陸 和 山

宮瀧の森ヨ行ク山 朝 和 水に彩倉の山 筑前

熟

熟ヨ源 城 草 交 扶 野ヨ 近 龜の山 更科 信濃 里吉野ヤ栗 近 日 野

野 安房 和 日 高田朝の原 伏見 城 日 陸 大原 官城野の原

阿 和 多 大野ヨ遠 扶 里ヤ石 城 田の杜ヨ木 信濃 曾山の赤

松

松 遠 扶 里小野ヨ桂川 城 日 光の山ヨ昌 扶 陽 上 冊 後 の浦

水 近 ガキ の器小野ヨ奥 高 城 羽の山ヨ 近 行 ヨ

宮 陸 城野の原有 城 栖川 阿 和 多 大野ヨ 春 筑 山

秋風

秋風八白 陸 川乃関不 為の 関 和 城 日

紀 扶 陸 吹上 紀 波 信濃 山 名 為の 小野ヨ 筑 扶 山

桐

桐ヨ八 筑 波 中 城 後 筑 乃山 河内 ヨ 筑 人 君ヨ

高 播 波 陸 水 筑 扶 瀧川 宮 城 陸 信濃 山 小 相 余 筑 波

布 和 留 常 瀧 和 三 宇 山 吉 和 柄小野ヨ 日 生 駒 紀 信濃

山

出 城 日 小 倉 城 武 蔵 野ヨ 和 三 室 山 河内 父野 西 遠 野ヨ 和 秋 篠の里

栗 近 越中 野 有 ヲ 乳 化 野 源 城 ヨ 朝 和 の原ヲ 任 扶 の里

春雨

春 城 雨 八 行 扶 里 朝 和 の原ヨ 日 三 稿 の山本

五月雨

さみだれは佐野(上野)の舟橋淀(摂)の渡笠(同)取山(城)や菖蒲(同)野

―松浦(肥前)生駒(和)に泉川(城)井手の里(同)に天の川(和)の山(淀川)

―芦屋(摂)の里に吉野山(和)室の八嶋(下野)に伊勢の海

時雨

時雨には生田(摂)の杜(和)に逢坂山(近)篠原(泉)衣笠(近)に小倉山(城)

―守山(近)初瀬(和)三室山(同)白川(陸)の関浜名の中山(遠江)

―大原(城)小塩(同)鈴鹿(勢)川清瀧(同)笠置(同)の山

―衣手の杜(城)紅葉山(丹後)石田(城)の杜あらち山(越前)

花薄

花薄波瀬の杜(同)や嵯峨野(城)小倉(同)生野(丹波)遠里小野(摂)の里(和)

―交野(近)嵯峨(城)安達か原(陸)朝日(和)の原に秋篠(同)の里

尾花

尾花咲く篠(常陸)宮城野(城)の浦(摂)深草(城)小倉(同)の野(近)の上(紀)

―宇治(城)に南(楢)野(和)や松浦(肥前)春日(和)三笠(同)山

―布留(和)の野上(紀)昆陽(摂)池野(近)とよ里(摂)布引(同)の滝

紅葉

もみぢには岩瀬(和)の杜に宇治(城)伏見(同)生駒(和)高(同)鎧相坂山(近)

―天の橋立(丹後)立田山(和)稲荷(城)古柄(和)小野(同)諏訪(城)の原

―白川(陸)の関(同)まや伊吹(近)守山(同)箱根(淡海)ましまに足柄(相)

―もろこし(城)の杜に比良(近)の山鳴海(尾)朝の原(和)鏡山(近)

菊

菊布留(和)野玉川(城)吹上(紀)鏡山(近)淀(摂)に菊野(城)更科(信乃)の山

―水無瀬(摂)見武志(?)の保の川(和)広沢(城)佐保(摂)に大井川(城)

松吹く泉和三笠の山や有栖川城三笠奴見る秋山城

一住吉大原の田舟城和

紀伊の国の名所絵海の上の秋の夜

一高野の山見住む小倉の家

松風

一月の風八幸浦城近

一鳴る音鶴八惜山野城和

一雲の上の宮の中の箱崎の浦筑前

天津乙女

天津乙女の袖の浦神楽の原余呉海和近

秋の夜の月

秋の夜の月八石山近

一雄滝や五十嵐川十寄衣美川浦の浦陸奥

蛍

一ほたるの飛ぶ所ハ吉野里蓑豆野飛火野城和

一飛ぶ蛍ハ名野ハ月の池夜美川ハ住吉里

雲

雲の上ハ住吉の岡ハ安倍の山ハ尾張

梅

梅の花ハ住吉三宮の梅月

一三宮の相坂関ハ桂川城

一花吹く井ハ住保の川晴れの山ハ朝日

一八幡の月ハ石山の月ハ住吉の浦ハ和

一八幡城

一稲荷形見の浦石上和

春風

吉野山 和 清滝山 城 紀泉 吹上の浜 和 筑前

一 右近 和 稚児 元淳 越の白根 賀 上菅 和 探乃山

月新

月新 俊 泉 源草 城 三稜 和 清見原 播 丹後 の浦 播 潟

一 長浜 播 の浦 泉 城 茂茅野 の原 沖 近 清 山

紫

紫 城 の大原 城 同 小塩山 和 花 同 野 同 播 城 原 瀬山

一 栗津野 近 城 春日山 和 安達 陸 原 巨勢野 和 武茅野

蛭

蛭 播 子 城 塩 狭山 城 井 里 和 伊保の川 城 昆湯泉 播 城

一 賜 城 の井 和 の門 同 布留の中道 下総 川

鳳金

一 鳳 武茅野 陸 塩竈 越前 城 和 陸 山 倉 高 白川の関

一 ナ 和 里 越前 山 水茎 近 の里 鳥羽 城 や 播 一

一 朝 和 の水 同 三笠山 上野 佐野の松原 更科 信濃 乃山

一 三稜 和 の里 播 の浦 相 城 信濃 中山

庶

庶 和 務 城 川 和 近 龍田 播 山 下 南野 高砂 丹 和 の山

一 交野 同 内 岩 和 の滝 丹後 大江山 城 武茅野 遠 小塩の中山

一 三笠 和 紀 の里 良 城 の滝 秋 城 山 同 の山 同 衣手 城 岳

枚村

枚村 城 の山 義の 不 城 関山 苗 城 絶 相 柄の山

一 巨勢野 和 相 近 三稜 和 の山 左河 同 遠 布 同 留山

玉の厲

陸奥 近江 丹後 播磨 近江

陸奥 近江 常陸 和泉 相模 陸奥 和泉 陸奥 和泉

呼子鳥

霞

霧

萩

萩

さゝれ石

白雲

志ゝ雲八和歌引青根高山室ノ上野八海や海ノ系駿

常盤城ノ岩根に絶ぬ富士ノ峯紀伊ノ生ノ苔和歌

武蔵野の系ゝ野和歌山の麓ノ山の遍路陸奥

煙

ゆゝしき八室の八島ノ下野富士の嶽駿河城

海間の草野ノ上野和歌城

志ゝ雲路

白雲ノ石ノ城城寺山や石ノ上和歌阿多ノ大野ノ武蔵野

鶴

芦屋ノ人ノ葦ノ孫ノ浦ノ波ノ浦ノ波ノ塩竈浦相模河内陸奥

由良ノ長居ノ浦ノ玉津島ノ藤ノ浦ノ海紀伊播磨

田鶴

田鶴ノ浦ノ波ノ浦ノ和歌ノ浦ノ佐保川ノ霜ノ澤ノ和泉和歌紀伊

八三尾三大ノ浦ノ三津ノ浦ノ義豆野ノ海ノ来ノ近江陸奥

明石ノ浦ノ松ノ海ノ田蓑ノ島ノ海ノ海ノ山播磨城

千鳥

潮ノ八ノ波ノ松ノ海ノ与謝ノ浦ノ波ノ明石ノ海ノ海ノ上丹後陸奥播磨尾張紀伊

大淀野ノ海ノ浦ノ和歌ノ浦ノ鳴ノ由良ノ戸紀伊阿波

加茂ノ大井川ノ和ノ浦ノ波ノ系ノ狭名野ノ小余綾紀伊陸奥相模

芦

布ノ波ノ波ノ江ノ三ノ波ノ波ノ波ノ廣澤ノ猿沢ノ池和泉城

淀ノ摩ノ昔ノ田ノ池ノ漆ノ川ノ見ノ浦ノ佐野ノ小ノ橋近江和泉摂津上野

八ノ波ノ広ノ佐保ノ川ノ系ノ大井ノ川ノ長柄ノ長居ノ浦ノ難ノ浦和泉摂津城近江

雪

雪信濃泉 犬甫幡の山 小塩山城 富士 叡山近 天竺和

佐名野岩橋和 若狭国 出羽 出羽の浦 杉 水海 越中 紀の浦 紀山

巨勢野 和 六甫の浦 紀 美の浦 向乃 武蔵 城 木幡 越後

青羽 城 六野 和 新潟 杉 真栗 近 信濃 国

生野 丹波 自 陸 紀 加賀 自山 信濃 陸奥 小夜 遠江 中山

白雨

夕立 丹波 八木 代の 曽我の 赤 大江山 丹後 朝 城 見 天竺和 の山

高間 和 の山 信濃 浮 信濃泉 武蔵野の 赤

霰

あ 岐 八 生 弱 幸崎 近 良 国 杉 和 美の 越前

宜 師 和 の山 伊勢 海 玉川 城 紀 吹上 和 柏木 乃 麦

吉 柳 武 八 狭山 信 杉 佐 和 多川 菅田の池 国 布留 木幡 城 山

清 城 水 杉 川 張沢 参河 八 橋 信 和 保 角 下総 川

龍

滝 陸奥 荷 朝 野 白川 城 青羽 出 妹 紀 背 の山 那 紀の 国

水 杉 六甫の浦 河内 天の川 城 の 天 和 の 香 名

御幸

浦 手 八 城 城 大井川 国 賀 紀 野 和 芹川 幸崎 近 篠 和

三 和 稲 有 城 川 三 城 山 大原 山 杉 城 池 有 馬 杉 里

苔

苔 武 狭 水 近 の 里 三 宇 和 山 有 越中 義 北 渓 城 の 里

信 泉 大 阿 多 和 野 紀 城 の 甫 杉 澤 相 近 の 山

炭竈

さゝ竈大原の末小野は奥能登の山ゝ海士近

海士

海士ゝ浦三河の塩竈綱の浦指ゝの浦ゝ吹飯の浦ゝ阿波の浦ゝ淡路の浦ゝ

村雨

村雨ゝ鳥羽田の里ゝ駒交野ゝ水茎の岳

君の代

君の代ゝ蔵人ゝ清水ゝ和歌の浦ゝ

旅人

旅人ゝ竜田山ゝ野の奥

鐘の声

鐘の声ゝ高野山ゝ清見高砂ゝ山相坂ゝ栗津野ゝ寺

杉

杉ゝ八夜ゝ乙女川ゝ

梅

梅ゝ梅津の川ゝ

鶴

鶴ゝ波の音ゝ

清水

清水ゝ和田の池ゝ

霜

霜ゝ中山相坂ゝ老曽ゝ水茎の岳

橋

橋ゝ浦ゝ鳥川ゝ

蟬 泉 肥前 丹後 大隅

蟬小倉大江礼振山 大江山 紅色 城 衣手 城

一 本曽 阿波 尾 竹の 和 杉 近 赤筋 門 住吉 寺 安景の山

神代 近 城 同 和 同

神代 長崎 筑前 絹崎 小塩山 大原 田天の香久山

淺茅 紀 城 越前 城 同 同

淺茅 小浜 上伏見 越前 ちの山 源 草 自野の篠

一 木綿 近 陸 信 玉 朝 和 カヤ 同

木綿の岡 信太 朝の原 蜻蛉の小野

早苗 城 駿 城 近

早苗 上伏見の里 布留の原 安陸 苅田 木綿 要

鳴神 和 杉 城 同 近

鳴神 八雲 高の山 浦 音羽 茂成 滝 楽の山

関 陸 陸 杉 後 城 近

関 船 寺 鳴 白川 滝 佐 木 曽根 坂 音羽山

一 越中 美濃 出羽 勢 陸 美濃 和

越中 美濃 出羽 勢 陸 美濃 和 柄の山

秋の夕 城 同 越前 近

秋の夕 小倉山 神山 里 伊 越前 山 野の人江 秋の夕

八重垣風 薩摩 杉 陸

八重垣風 高砂 沖の浦 紀 浮 雄 八重の塩風

沖津白浪 播

沖津白浪 伊勢海 下 南野の赤 龍田山 誓の浦 沖津 浪

駒 杉 城 近

駒 弱 紀 波 飛 弁 里 伊野の駒 巨 駒野 杉 伊

一 要 近 津 城 紀 和 城 相 和 杉 陸

要津 深 紀野 三 山 養 野 柄 伊 保 陸 あさる山

子ノ日

春日野 神城 陸城 近 杉

亀ノ甲山 塩竈 永昌寺 吉倉

朱雀玉垣

杉 和 近 久城

倉ノ山 三室の山 有馬 紀の淡路 朱雀玉垣

貞享元年 子八月吉辰

大坂伏見呉服町 書林

源江屋太郎兵衛板